



INPEX、イクシス LNG プロジェクト向け LNG 全船に NAPA Performance Monitoring を導入

ヘルシンキ、フィンランド – 2019 年 2 月 12 日

日本最大の石油・天然ガス開発企業の国際石油開発帝石株式会社（INPEX）は 12 日、船舶の設計と運航支援のシステム開発やデータ解析サービスを行う「NAPA Ltd.」（NAPA, 本社ヘルシンキ、日本海事協会の 100% 子会社）が提供する運航支援システム「ClassNK-NAPA GREEN」を、INPEX が操業主体（オペレーター）を担うイクシス LNG プロジェクト向け 2 隻及びプレリユード LNG プロジェクト向け 1 隻に搭載し、運用を始める。

INPEX は複雑な LNG 船のパフォーマンスを精度をよく検証するために NAPA 社の持つ LNG 船の設計工学ノウハウや高度なパフォーマンスモニタリング技術を取り入れた「ClassNK-NAPA GREEN」を採用した。

今回採用された 3 隻(Oceanic Breeze, Pacific Breeze, and Symphonic Breeze)はいずれも大型の MOSS-type の LNG 船であり、INPEX は「ClassNK-NAPA GREEN」を利用することにより本船の日々の運航パフォーマンスをモニタリングするとともに造船会社の設計値と実際の運航パフォーマンスの比較なども行う。

伊東明彦氏（グローバルエネルギー営業本部 LNG トレーディングユニット輸送グループマネージャー）のコメント

“LNG 船の推進システムは他の一般商船と比較して、特にカーゴマネジメントシステムと電気推進・蒸気タービンといった推進のシステムに密接に関連し非常に複雑になっている。それらに影響する要素の状態把握が非常に重要となる。パフォーマンスモニタリングにおける主要パフォーマンス指標（KPI）の設定では、LNG 船の設計と運航、双方の経験・知識に基づくノウハウをもつ NAPA と INPEX の協業により、フリート全体のパフォーマンスや航海レポートの高度化と見える化を実施している。”

“イクシスは世界で最も複雑な LNG プロジェクトの一つであり、西豪州海岸より約 200km のオフショアプラントで今後 40 年間運用される予定である。イクシスは年間 890 万トンの LNG のほか、最大で 165 万トンの液化石油ガスおよび 10 万バレルのコンデンセートを生産する。”

“ClassNK-NAPA GREEN は、本船の日々の実運航のパフォーマンス情報を効果的に提供するため、我々はタイムリーにフリート全体の運航パフォーマンスの評価を行い、改善のための対策を講じることができる。これは日本の長期的なエネルギー安全保障への貢献における我々の LNG 供給の信頼性と効率化を支えると考えている。”

イクシスプロジェクトは INPEX が主要投資者であり、このほか TOTAL 社、CPC 社、東京ガス、大阪ガス、関西電力、JERA、東邦ガスが出資している。

水谷 直樹(NAPA 社、運航支援事業部、上級副社長)のコメント

“LNG 業界での先進的な企業として、INPEX は高度なパフォーマンスモニタリングを必要としていた。イクシス LNG プロジェクトは先進的なプロジェクトであり、INPEX のビジョンの実現に我々が支援できることを誇りに思っている。ClassNK-NAPA GREEN は、個船の船速や燃費のモニタリングだけでなく、本船の安全性を高めるための環境要因の理解にも役立てられ、実船において効果が実証されている。例えば、実船において本船のルートに大きな低気圧が近づいた際に本船はシステムの支援により効果的に避航することができる。”

“Oceanic Breeze”:



NAPA 社

フィンランド本社 NAPA Ltd の創業は 1989 年。現在、日本、韓国、中国をはじめとする 11 カ国に支社をもち、2019 年で創業 30 年となります。現在までに約 420 社の顧客を抱え、船舶設計や運航支援システム等で約 2,500 隻の搭載実績があります。

NAPA 社 : www.napa.fi

国際石油開発帝石（INPEX）

世界 20 数カ国で約 70 のプロジェクトを展開する日本最大の石油・天然ガス開発企業です。

メディア問い合わせ先

Nick Arthur

BLUE Communications

T: +44 1865 514 214

E: nick.arthur@blue-comms.com